

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成26年4月3日 (2014.4.3)

【公開番号】特開2012-189440(P2012-189440A)

【公開日】平成24年10月4日 (2012.10.4)

【年通号数】公開・登録公報2012-040

【出願番号】特願2011-53019(P2011-53019)

【国際特許分類】

G 0 1 J 3/02 (2006.01)

G 0 1 J 3/36 (2006.01)

【F I】

G 0 1 J 3/02 C

G 0 1 J 3/36

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月13日 (2014.2.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 1】

このスペクトル 3 0 3 の遮断波長 f_{cut} 以下の成分に対して内挿処理を行なうことで、迷光成分を示す特性情報 3 0 4 を取得する。さらに、この取得した特性情報 3 0 4 に対して外挿処理を行なうことで、遮断波長 f_{cut} より長い波長範囲までの迷光スペクトル（迷光パターン）3 0 5 が取得される。このとき、測定スペクトル 3 0 1 が測定された際に、同時に測定された信号強度 D_0 を用いて規格化が行なわれてもよい。このように迷光スペクトル（迷光パターンの各成分の振幅を規格化振幅（0 ~ 1 の範囲内の値をとる）とすることで、通常測定における補正処理をより簡素化できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 7】

続いて、ステップ S 1 2 0 ~ S 1 2 6 に示す迷光パターンの算出処理が実行される。すなわち、ステップ S 1 0 2 において取得された測定スペクトルからステップ S 1 1 2 において取得された測定スペクトル（ダークスペクトル）を減算する（ステップ S 1 2 0）。なお、この減算処理は、対応する各波長について 2 つの成分の間で引き算がそれぞれ実行される。

【手続補正 3】

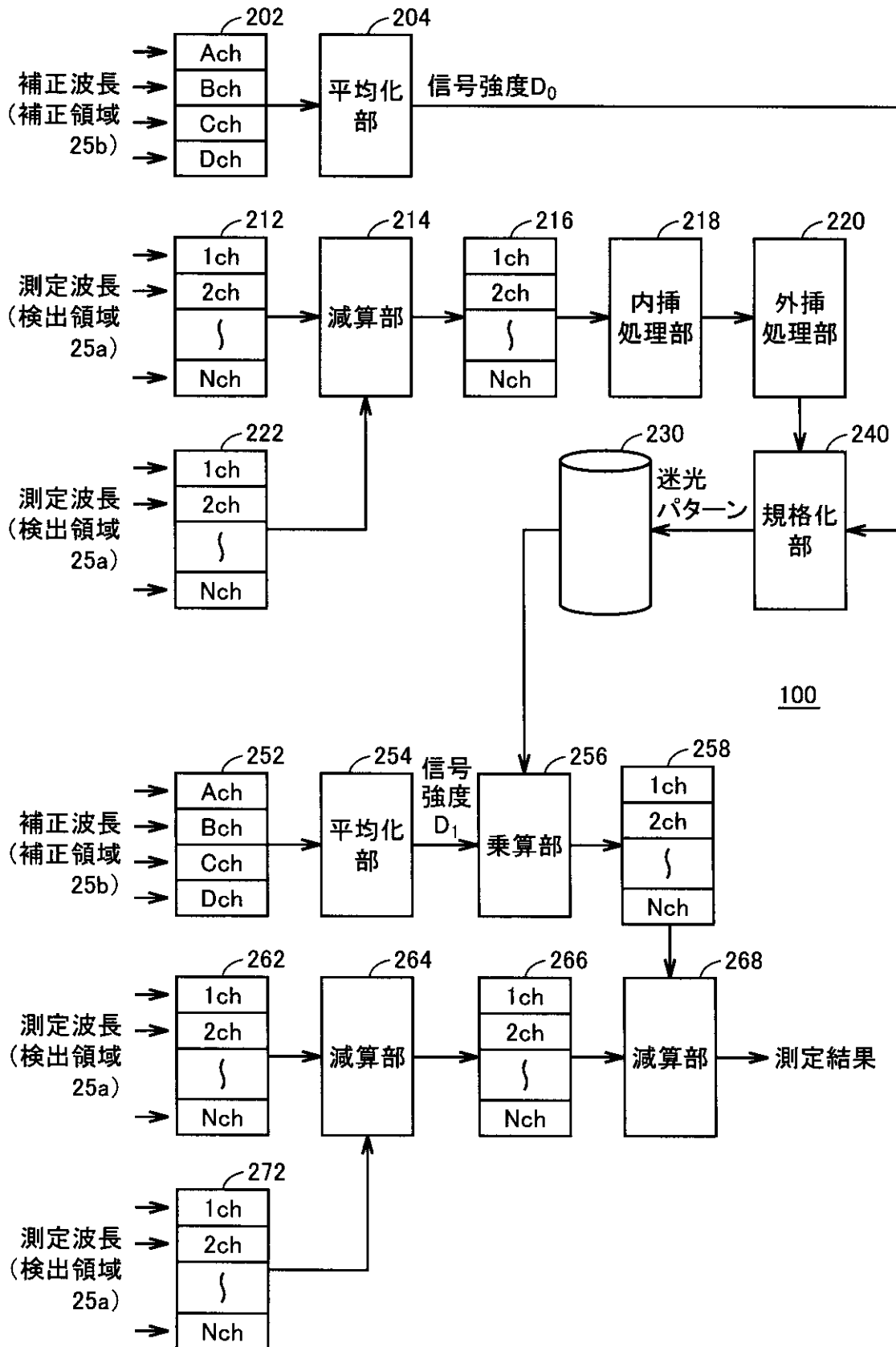
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】



【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

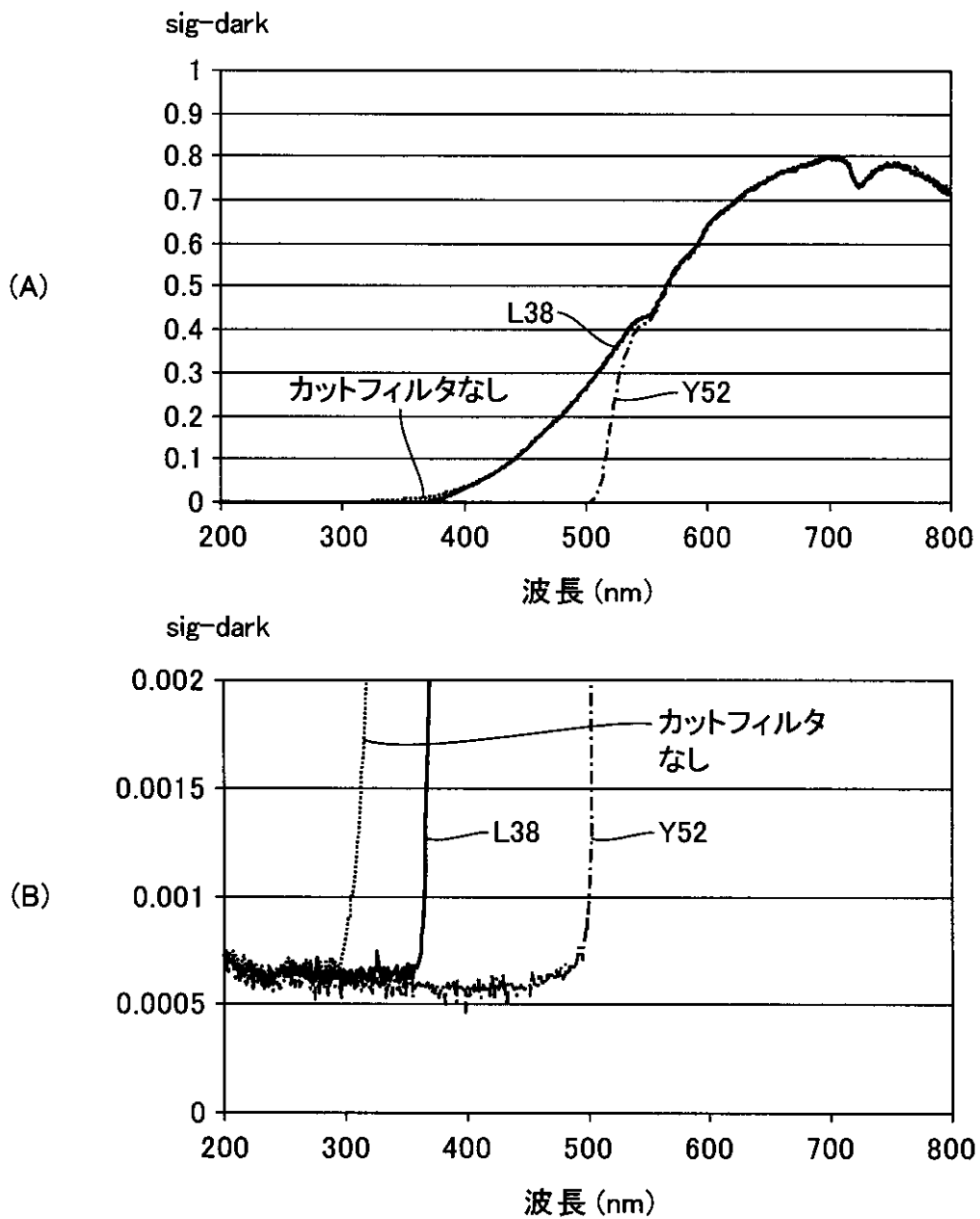
【補正対象項目名】図 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 4】

100°C



【手続補正 5】

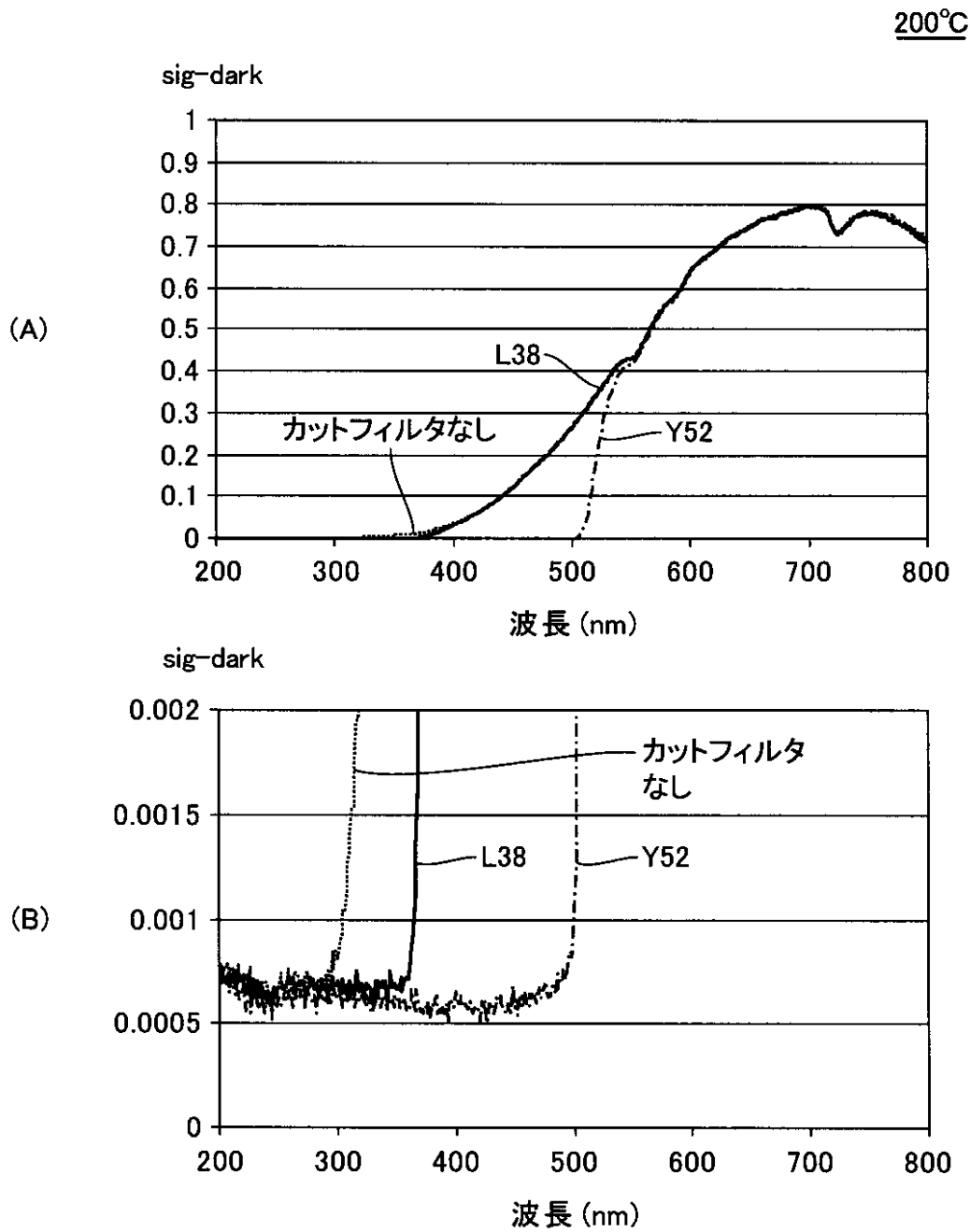
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 5 】



【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 1 6

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【図 16】

